



2005年3月期
決算説明資料

平成17年10月

ケンコーマヨネーズ株式会社



平成17年3月期 本決算概要

平成17年3月期の総括



当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の回復や設備投資の拡大、堅調な雇用環境に支えられ回復の兆しがみられる一方、原油価格の高騰や円高などの影響もあり、景気の足踏み状態が続いております。

食品業界におきましても、相次ぐ自然災害や天候不順による葉物野菜の高騰、更に中国の需要増加による食油価格の高騰、産卵鶏の羽数の減少による鶏卵価格の高騰もありました。また、食品の安全性・信頼性を揺るがす問題もここ数年続き、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中で当社グループは、お客様の「安全・安心」へのニーズにお応えするため、トレーサビリティ・システム構築への取り組みを始めました。

また、中期経営計画「ケンコー・リバイバル・プラン520(以下KRP520)」は予想以上の成果を挙げたことで、仕入コストの増加による収益への圧迫もカバーすることができました。

その結果、当連結会計年度の連結売上高は498億1千2百万円(前年同期比5億6千5百万円、1.1%増)、連結経常利益は14億1千8百万円(前年同期比3億7千5百万円、36.1%増)、連結当期純利益は1億4千万円(前年同期比14億9百万円増)となりました。

平成17年3月期 連結貸借対照表



(単位:百万円)

	今 期	前 期	増 減	備 考
流動資産	14, 300	14, 835	△535	売上債権・在庫の減少
固定資産	13, 242	13, 964	△722	
資産合計	27, 543	28, 800	△1, 257	
流動負債	17, 683	18, 325	△642	短期借入金等の減少
固定負債	4, 858	5, 546	△688	社債等の減少
負債合計	22, 541	23, 872	△1, 331	
資本合計	5, 002	4, 927	74	
負債・資本合計	27, 543	28, 800	△1, 257	

平成17年3月期 損益計算書



(単位:百万円、%)

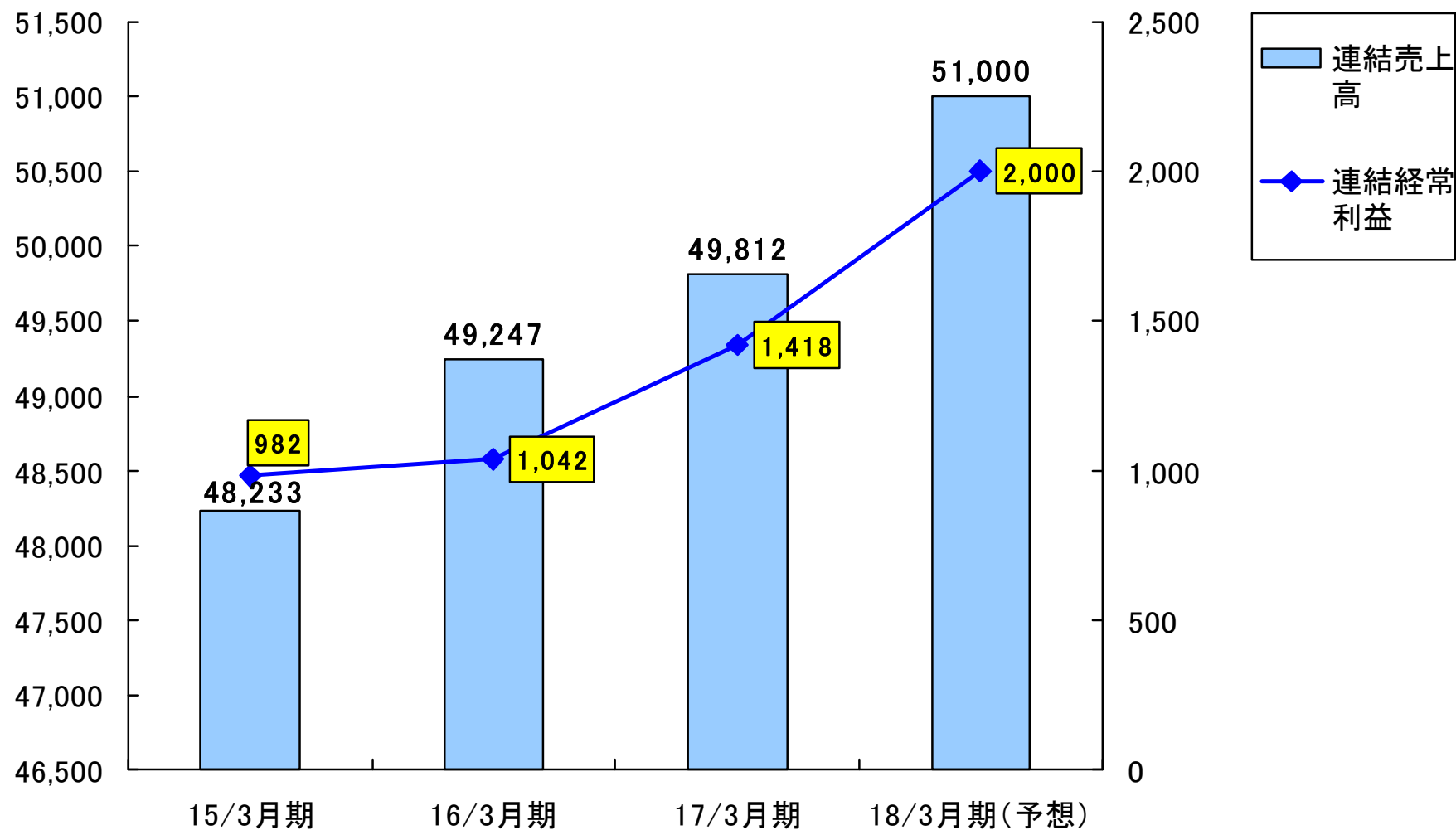
	17年3月期	16年3月期	前期比
連結売上高	49,812	49,247	101.1
連結営業利益	1,614	1,327	121.6
連結経常利益	1,418	1,042	136.1
当期純利益	140	△1,269	—
売上高(単体)	43,280	46,150	93.8
営業利益(単体)	1,422	1,082	131.4
経常利益(単体)	1,290	908	142.1
当期純利益(単体)	212	△1,424	—



連結売上高・経常利益の推移

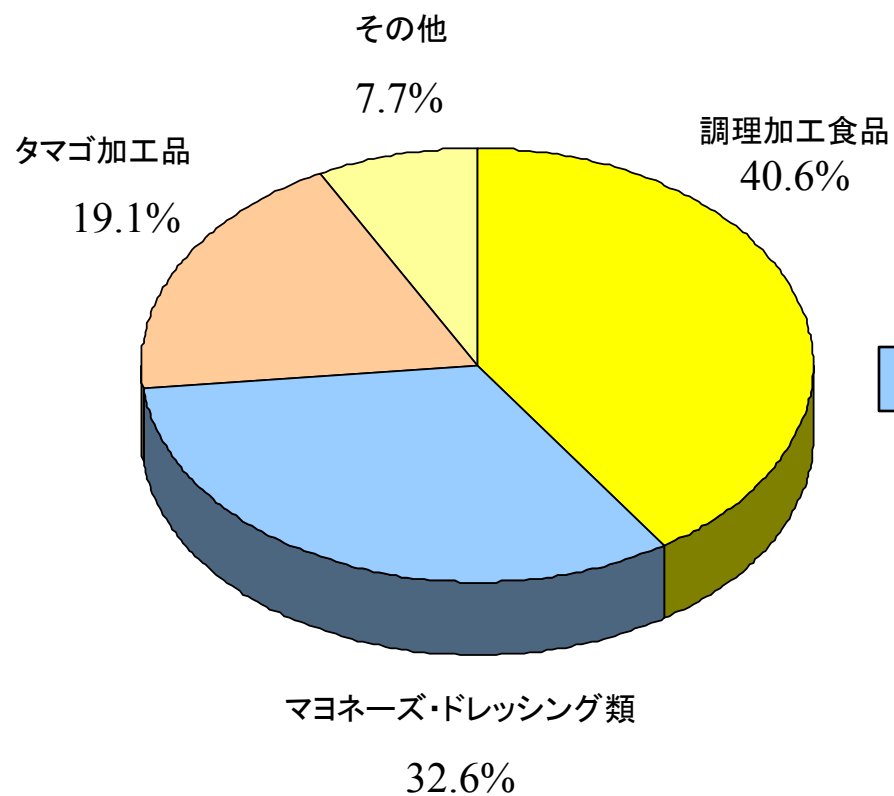
■内の数字は、連結経常利益

(単位 百万円)

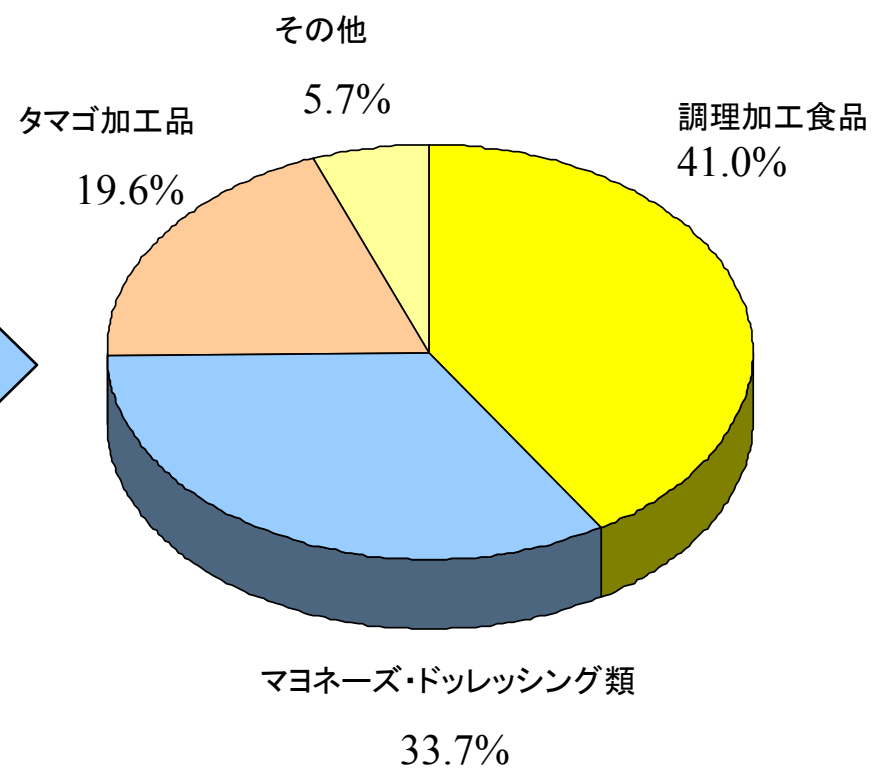
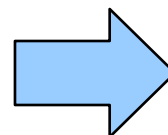


中期経営計画(KRP520)を1年前倒しの平成17年度で達成させる予定です。

連結売上構成比の比較



平成16年3月期



平成17年3月期



平成18年3月期 業績予想

平成18年3月期の業績予想



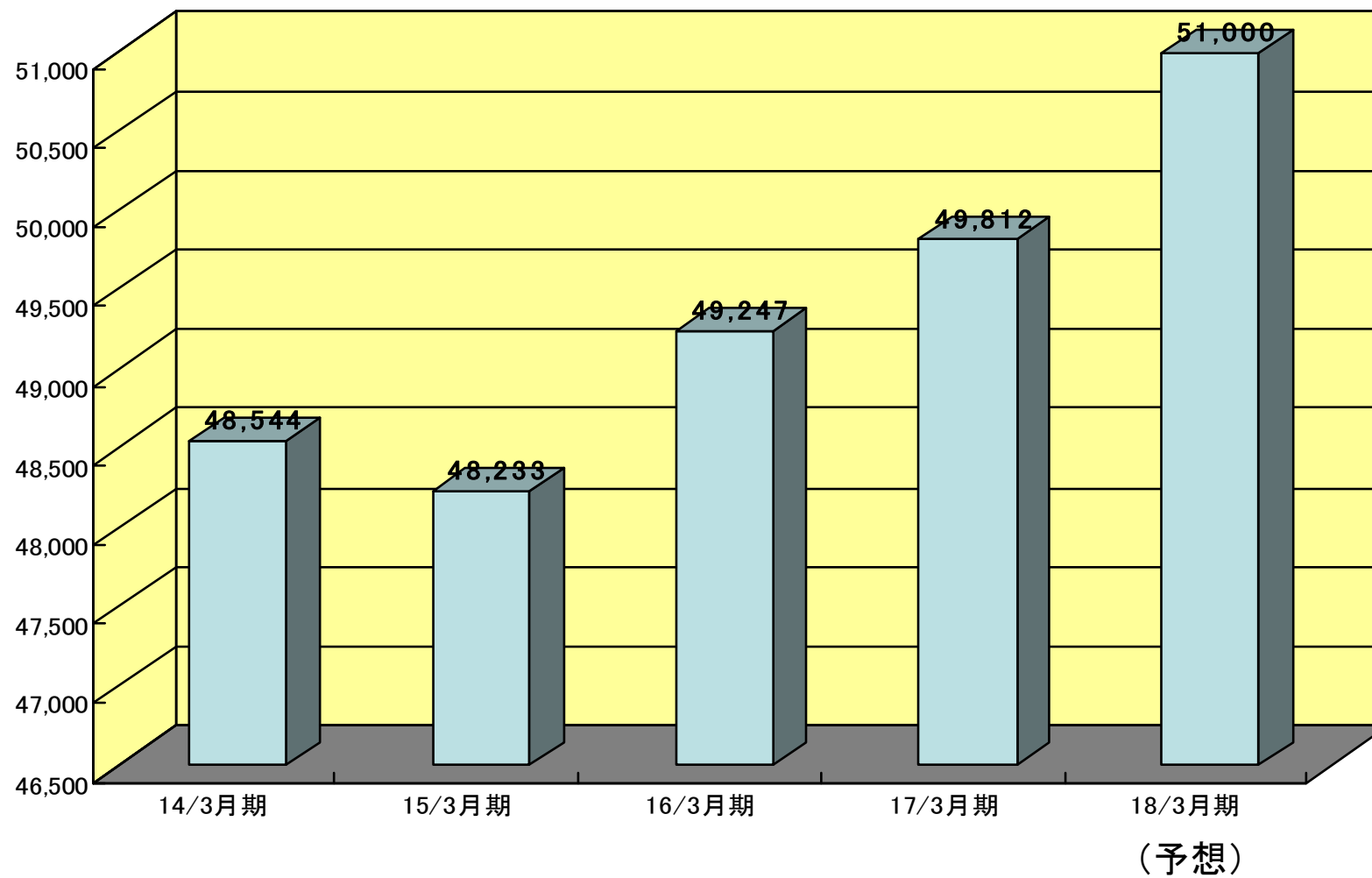
(単位 : 百万円)

	17年3月期	18年3月期 (予想)	前期比
連結売上高	49,812	51,000	102.4%
連結経常利益	1,418	2,000	141.0%
連結当期利益	140	200	142.9%
単体売上高	43,280	43,600	100.7%
単体経常利益	1,290	1,800	139.5%
単体当期利益	212	310	146.2%



連結売上高の推移と予想

(単位:百万円)





ご参考



当社の経営方針・中期経営計画

【1】経営の基本方針

当社グループの経営理念として『心身(こころ・からだ・いのち)と環境』を掲げ、また従業員全員による宣誓として『幸せ作りの為に考え、工夫する』、『資源と環境を大切にする』『成長を目指し果敢に行動する』の3つの誓いを立てました。

食品メーカーとして『心を豊かにする食品作り』、『身体にやさしい食品作り』を進めると共に、排水等の公害問題やゴミ処理の問題など環境問題に前向きに取り組み、企業として地域及び社会に貢献したいと考えております。

また、私共はサラダNo.1メーカーを目指してお客様に求められる安全で健康によい商品、新鮮で美味しい商品の供給に努め、併せて食べ方の提案も行い、商品開発から生産・販売まで自らの力で行っております。

私共にとって「サラダ」とは野菜をKeyとして肉、魚、乳加工品等の食材をマヨネーズ・ドレッシング・タレソース等の調味料で仕上げた料理と考えております。

これからは、よりサラダが『食卓の主役』であり、『食卓の主食』になっていくと私共は考えております。

今後はこのビジョンに向け、経営資源を適正に配分し、企業価値を増大させ続けることにより、お客様に信頼され、株主の皆様ごの期待に応え、環境問題も含め地域社会、国際社会に貢献して参ります。



「マルチ・ステークホルダー・エコノミー」というべき新たな時代の到来に対応するためCSRへの積極的な取り組みを行い、以下に掲げることを実行して参ります。

当社は創業以来、業務筋を中心としたお客様への営業活動により、発展して参りました。

ここ数年は量販店等に対する販売にも注力して参りましたが、中期経営計画『ケンコー・リバイバル・プラン520(KRP520)』で掲げた事業再編への課題に取り組み、当社の本業であります業務筋を基盤事業と位置付け、再度強化して参ります。



A リスク・マネジメントの強化

- ① 品質 HACCPに準拠した衛生管理、工程管理の実施、品質保証本部による工場管理状況のチェック
- ② 財務 長短資金適正残高の確保・維持並びに最適資本構成実現
- ③ 法務 法令順守のための管理マニュアル作成と整備

B コーポレートブランドの向上:(安全・安心・安定・美味しい)

- 安全・安心できる美味しい食材の安定供給
- デパート地下売場での店舗展開の拡大
- 生産から販売まで行える海外での事業展開

C 情報化社会進展における対応

- 多様化・複雑化する取引対応のための基幹系システムの再構築
- 品質管理体制の強化のためのトレーサビリティ・システムの導入

平成19年3月までに実現させるべく進めて参ります。

また、『KRP520』では数値目標を下記の通り掲げております。

数値目標 平成19年3月期

- | | |
|-------------|---------|
| ①連結売上高 | 500億円以上 |
| ②連結経常利益 | 20億円以上 |
| ③連結ネット有利子負債 | 100億円以下 |

このうち、連結ネット有利子負債100億円以下という目標は平成17年3月期に達成済です。
また連結売上高、連結経常利益につきましても、1年前倒しの平成18年3月期に達成させる
予定です。



本資料に関するお問い合わせ

ケンコーマヨネーズ株式会社

TEL : 03-5317-1111